

## 赤野井湾流域における現状の課題とその対応等について

委員	委員ご意見	項目整理	ご意見に対する回答
守山市自治連合会 石原委員	(課題) 河西学区から見ても、赤野井湾にそそぐ河川を流れるごみの量が多いと感じる。	ごみ	県では、令和5年度から、プラスチックごみに関して、琵琶湖への流入量と流出量をそれぞれ調査し、琵琶湖全体のプラスチックごみ等のフローを把握する予定です。 引き続き、プラスチックごみの状況をしっかりと把握し、削減対策につなげていきたいと考えています。
玉津小津漁業協同組合 田中委員	(今後の取組) シジミ、2枚貝の復活を目指しマンガン、鋤簾等による湖底ゴミ除去活動、また各河川から流入するゴミ除去と共に啓発活動を実施する。		
NPO法人びわこ豊稔の郷 金崎委員	(課題) 赤野井湾に流入する濁水について、毎年代かき時に水質調査時に大変気になります。 (考えられる取組) 行政や各関係者の情報共有をしておりますが、濁水について現状の取り組みを知り、改善に向け農業者や関係団体にできることはないでしょうか。 野洲川にそそぐ杣川流域の住民の言葉に「びわ湖に流れていくので濁水は流さないように地域の田んぼをチェックしている」と聞きました。	濁水	県が実施している河川調査(守山川)では、令和4年度5、6月で透視度(5月58,6月68)が普段より低い結果だったが、計画においては、農業排水対策として、各土地改良区をはじめ、JAレーク滋賀や守山市等にもご協力いただき、対策を行っているところです。  来年度も各団体で引き続き対策を行っていただける予定ですが、もし、新たな取り組みやその他ご意見があれば発表をお願いします。
JAレーク滋賀 木村委員代理 森田様	(課題) 減肥すなわち経費が削減される環境こだわり米(滋賀83号を含める)の拡大が必要も、高齢化、集約化が進行し対応が必要。	こだわり農業	県としては、高齢化については、農業全体の課題として受け止めており、農業の担い手育成に力を入れています。
守山市消費生活学習会 岸委員	(課題) ①温暖化防止として、市民が実施できることには限界がある。 ②びわ湖の日について、広報不足ではないか。(学習会へ直接通知等があってもいいのでは。) (考えられる取組) ①レジ袋の有料化(エコバック持参)やマイボトルの使用のように、国や県が率先した「わかりやすい取組」があると、市民としても温暖化防止に取り組みやすいし、街頭啓発に取り入れ始めたい。	その他ご意見 温暖化防止	①県では、琵琶湖版SDGsであるMLGsを推進し、2030年の琵琶湖と琵琶湖に根ざす暮らしに向けた13のゴールを定めています。このうち、ゴール7の温室効果ガスの削減では、「ペーパーレス化」や「マイカップ、マイ箸」などを推進しています。また、2050年までに二酸化炭素の排出量を実質ゼロにすることを目指し、県民、事業者等多様な主体と連携して取り組む「しがCO <sub>2</sub> ネットゼロムーブメント」キックオフ宣言を行うなど、積極的に温暖化防止対策に取り組んでいます。 なお、地球温暖化防止活動センターHPでは「地球温暖化とわたしたちの暮らし方」等、普段の生活でできる取り組みも紹介されていますので是非ご覧ください。  ②県では「びわ湖の日」協力団体・関連企画・イベントを募集しております。「びわ湖の日」や「びわ活」に関連する企画・イベント情報をご提供いただければ県HP等での広報や、ポスター・のぼり旗の掲出することもできますので是非ご利用ください。